



アステラスの アドボカシー活動



～持続可能な医療の実現を目指して～

目次



はじめに	2
医療のエコ活動	3
大学との連携	6
他社との共催事例	6
マルチステークホルダーによる情報発信 - Innovation for NEW HOPEプロジェクト	7
政産官学（有識者）による研究会	9

はじめに

「ドラッグ・ラグ」や「ドラッグ・ロス」という医療課題をご存じでしょうか。「ドラッグ・ラグ」とは、海外で使われている新薬が、日本で承認されて使えるようになるまでに時間差が生じることを指します。「ドラッグ・ロス」とは、海外で既に使われている治療薬の開発が日本で行われず、使うことができない状況を指します。実際、直近5年間に米国で承認された新薬の約7割が日本で未承認であり、そのうちの約半数は日本での開発にも至っていません。これは、新たな治療選択肢を待つ患者さんやご家族、医療従事者にとって、深刻な問題です。

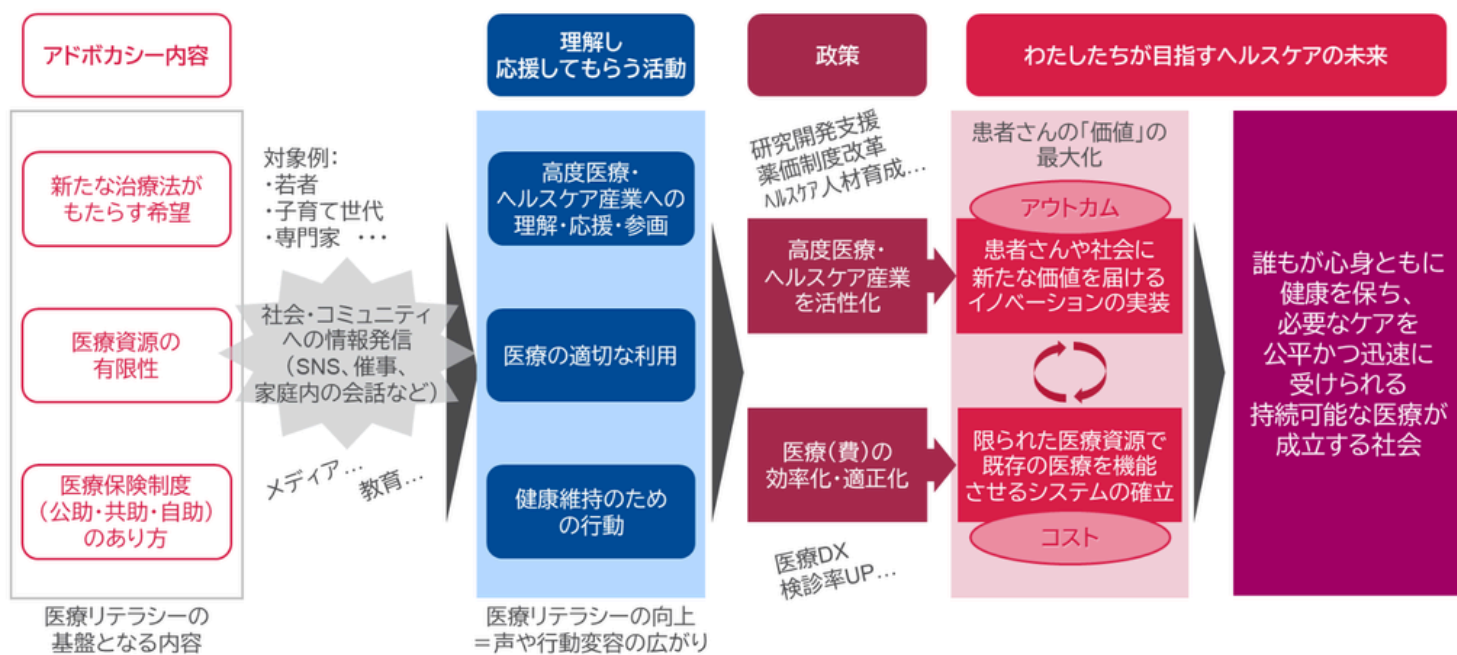
アステラスは、「科学の進歩を患者さんの『価値』に変える」ことをVISIONに掲げるグローバルライフサイエンス企業です。わたしたちは、先端・信頼の医薬で世界の人々の健康に貢献するため、研究・開発に取り組んでいます。さらに、様々なステークホルダーと連携し、相互理解と共感を深めるアドボカシー活動を通じて、医療課題の解決にも挑戦しています。

わたしたちは、新しい治療選択肢を届けることにとどまらず、「患者さんの『価値』を最大化する」ことを目指しています。これは、治療効果そのものだけでなく、患者さんの生活の質や希望、社会とのつながりまで含めた『価値』を広げていくことを意味しています。そのために重要なのは、患者さんや社会に対して新たな『価値』をもたらす医療イノベーションを社会の中で実際に活用できる形で届けること、そして限られた医療資源の中で持続可能な医療システムを構築することです。研究や技術があるだけでなく、それらが理解され、受け入れられ、実際に使われて初めて、患者さんの『価値』になります。

その実現に向けて鍵となるのが、「医療リテラシー」です。様々な立場の人が医療や健康に関する情報入手し、理解し、活用する能力である「医療リテラシー」を育てることが、原動力になると信じています。医療を自分ごととして考えることで、高度医療や医療の効率化に対する理解、応援、行動変容が社会全体に広がり、より良い政策を後押しすると考えます。

わたしたちはアドボカシー活動を通じて、「誰もが心身ともに健康を保ち、必要な医療を公平かつ迅速に受けられる、持続可能な医療が成立する社会」を目指します。これこそが、ヘルスケアの未来の理想の姿だと確信しています。

アステラスのアドボカシー活動 ～持続可能な医療の実現を目指して～



医療のエコ活動

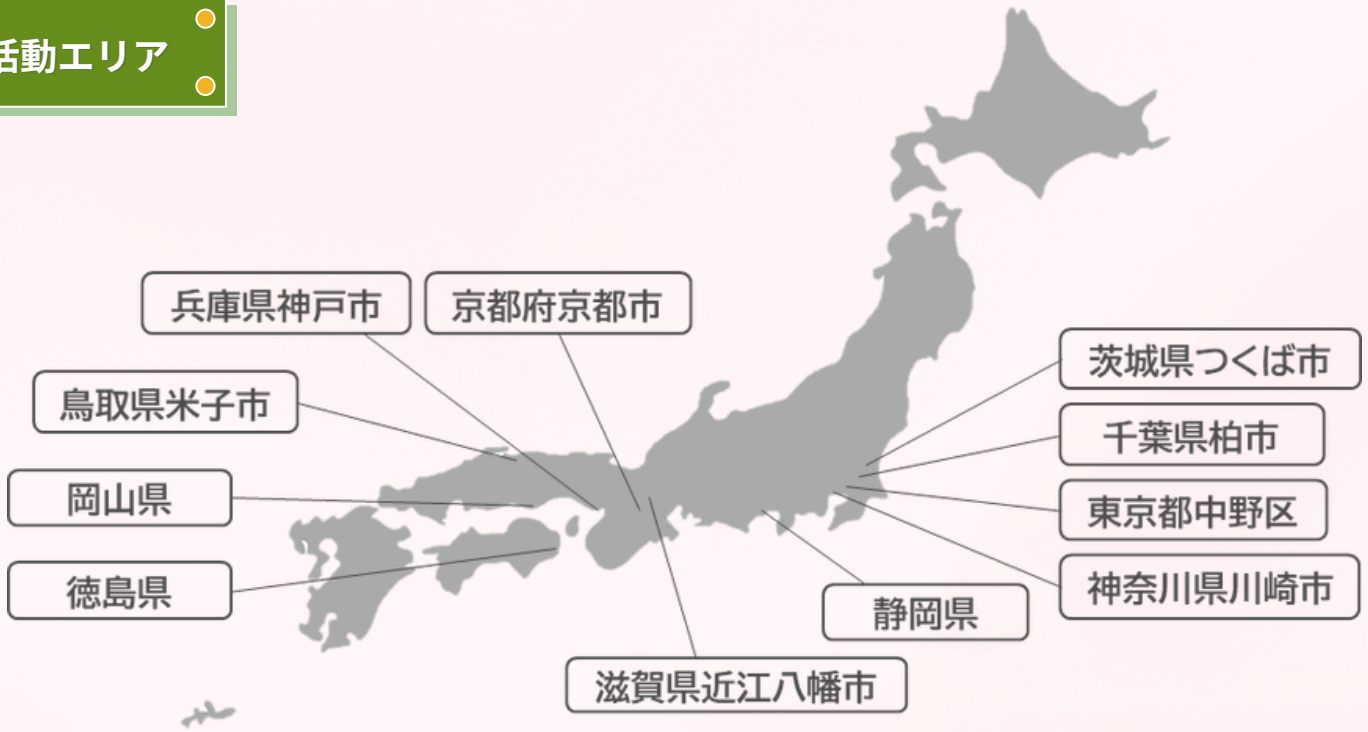
医療産業都市を中心としたエリアで、市民・行政・企業などの様々なステークホルダーと共に、学生や子育て世代の市民を対象とした活動をしています。少子高齢化による医療費増大を背景としたドラッグ・ラグ/ロスおよび薬剤の安定供給問題など持続可能な医療を脅かす医療課題や、限りある医療資源に対する意識が低くなりやすい日本の医療制度の特徴についての啓発をしています。

医療のエコ活動の
詳細はこちら→



また、その問題解決に向けて、一人ひとりが疾患予防や医療を適切に利用する、といった日々の活動に落とし込み、限りある医療資源を有効活用することの重要性の理解醸成を図っています。これらの活動では市民が主体となり、音楽絵本や歌・演劇、学校授業などでその重要性を発信し、医療系団体や医療機関、業種を超えた企業や行政なども協業して活動が広がっています。

活動エリア

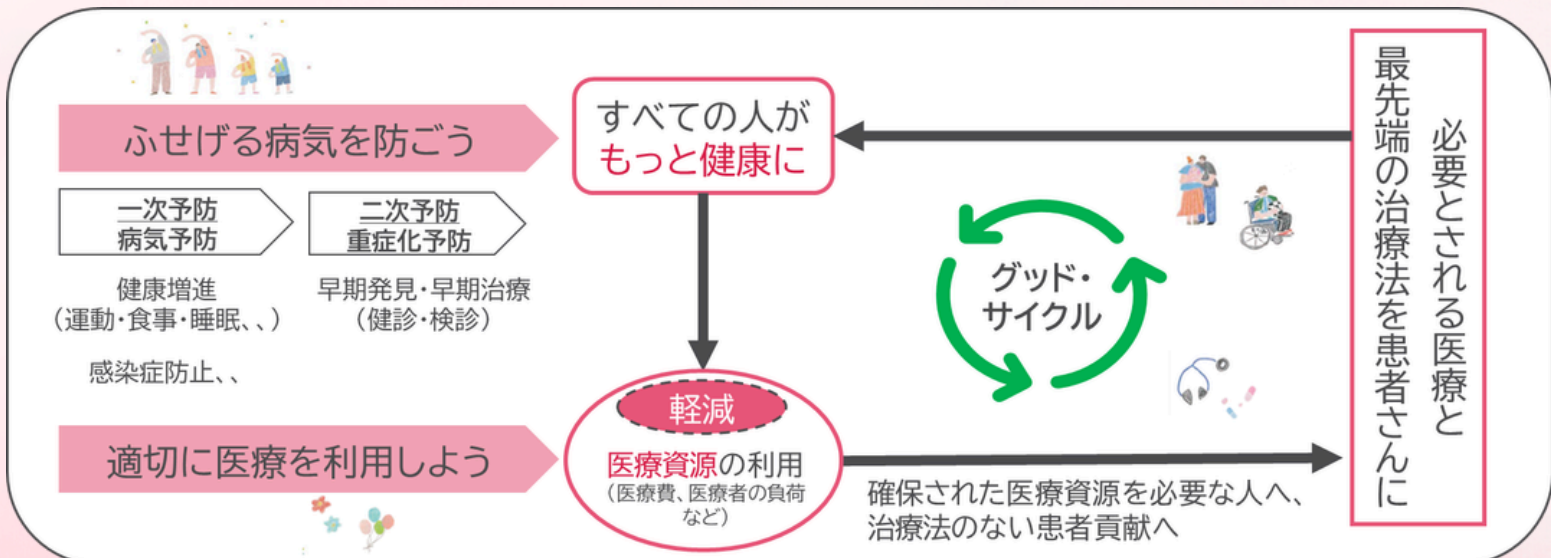


目指す社会とプロセス：「医療のエコ活動」



医療のエコ活動がわかる
アニメーション動画は
こちら

すべての人がより健康に、
患者さんが必要とする医療や最先端の治療法がいつまでも受けられる社会へ



出典：瓜生原 葉子* 同志社商学 第75巻 第6号 (2024年3月) 一部改変
* 同志社大学ソーシャルマーケティング 研究センター長、商学部教授

神奈川県川崎市

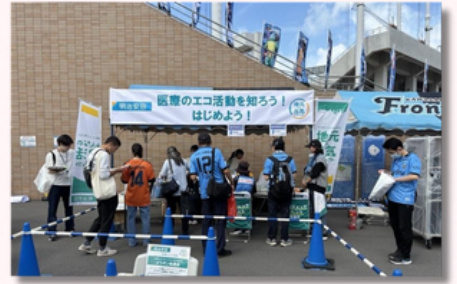
市民・行政・企業など様々な共創パートナーと共に、医療のエコ活動の普及に向けた取り組みが広がっています。



音楽絵本コンサート (2024年9月)



医療資源を大切にする活動をテーマとした音楽絵本



川崎フロンターイベント (明治安田生命ブース) (2025年10月)



かわさきFM、川崎市医師会、市民団体 Mirai allかわさがラジオ番組で発信 (2025年7月)



川崎市内最大級の子育て応援イベント (2025年10月)



大学生による母校(高校)での出張授業 (2023年11月)

京都府京都市

学生を中心に様々な共創パートナーと共に、イベントを企画・開催し、情報発信を行っています。



超ECO祭@イオンモール京都 (2025年11月)



「健康長寿のまち・京都市いきいきアワード2025」受賞



京都子ども探究博@イオンモール京都桂川 (2025年8月)

鳥取県米子市

地域の大学病院などの共創パートナーと共に、公衆衛生の向上を目指した活動が広がっています。



鳥取大学病院と共同で医療資源を有効活用する意義・行動を促すことを目的に冊子を制作



鳥取健康増進フォーラム (2025年10月)

その他の地域

- 学生向けイベント・セミナー** それぞれの年齢に応じた内容で、イベント・セミナーを通して医療の課題について学べる機会を提供しています。



城東高校での授業@徳島県徳島市
(2026年1月)



薬学教育セミナー@東京都中野区
(2025年8月)



東葛飾中学校・高校でのイベント
@千葉県柏市 (2026年4月)

- コンサート・演劇** 子どもたちにもわかりやすく、音楽や演劇を通して、薬について楽しく学べる機会を提供しています。



幼稚園でコンサートを開催
@千葉県柏市 (2025年11月)



小学校でコンサートを開催
@千葉県柏市 (2025年12月)



LOOPなかの（絵本ラウンジ）で演劇
@東京都中野区 (2025年8月)

- イベント・健康セミナー** 医療課題を知っていただき、自分にできることを考え、行動につなげるきっかけとなるイベントやセミナーを行っています。



つくばエコフォーラム
@茨城県つくば市 (2025年5月)



馬淵学区健康フェスティバル
@滋賀県近江八幡市 (2025年11月)



ヘルスケア健康セミナー
@兵庫県神戸市
(2026年3月)



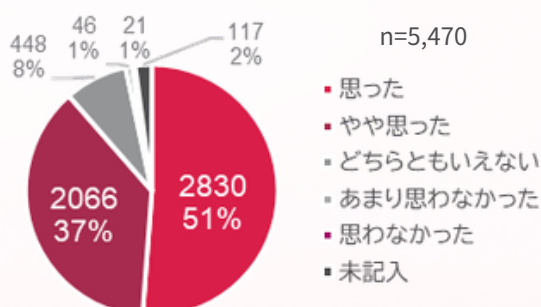
サイエンスピクニック
@静岡県静岡市
(2026年3月)

イベント参加者の医療資源・最先端治療に対する意識

- 【対象】 2023年4月～2026年3月に開催したイベント・授業の参加者
- 【情報発信方法】 複数の企業や団体が、資料を用いた説明や最先端治療について学べるクイズ等による情報を提供
- 【意見集約方法】 アンケートによる意見を集約

医療資源の有効活用への意識

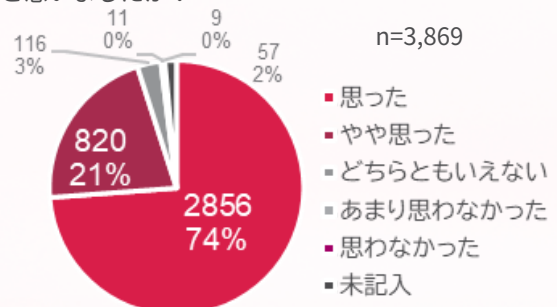
医療費の増大/ドラッグ・ロスを解消するために「医療のエコ活動」を取り組みたいと思いませんか？



88% が、医療費増大/ドラッグ・ロス解消に向けて医療資源を大切に活動（医療のエコ活動）に取り組みたいと回答

軽減した医療資源の活用

医療のエコ活動で軽減できた医療資源を、治療薬がなく困っている患者さんのためのおくすり（最先端の治療法）の開発に役立ててほしいと思いませんか？



95% が、軽減できた医療資源を、治療薬がなく困っている患者さんのためのおくすり（最先端の治療法）の開発に役立てて欲しいと回答

大学との連携

主に、以下の2種類のプログラム形式で、様々な大学と連携を進めています。大学連携プログラム終了後、アステラス アドボカシー部との継続的な協働を希望する学生には、後述のInnovation for NEW HOPEでの学生協働プログラムなどのアドボカシー活動の機会を提供しています。2023年5月以降、現在（2026年4月時点）までに約1600名の学生に講義を提供し、そのうち約250名の学生が協働を希望しています。下記は一部の事例です。

大学との連携の
詳細はこちら→



リーダーシップ開発プログラム

株式会社イノベストが各大学と連携して提供する、リーダーシップ開発を目的とした課題解決型授業プログラムです。学生たちはグループに分かれて社会課題について学び、解決策を考える中でリーダーシップを育みます。アステラスは課題提供企業として、日本の医療環境の課題を学生に紹介し、学生とともに解決策を探ります。

横浜市立大学

- ・期間：2024年4月～6月
- ・対象：全学部全学年希望者 61名
- ・課題：医療課題や革新的医薬に対し、横浜市における認知向上施策の提案



プログラム初回のアステラスからの講義



発表会@アステラス本社
＜高校生対象の施策＞

大学と連携する高校での授業を通じて
医療課題を伝える

↓ ↓
後日、学生たちが自主的に本施策を実践

個別連携プログラム

各大学のニーズに合わせて独自の連携を行うスタイルです。アステラス社員が大学を訪問して講義やグループワークを実施するケースと、学生がアステラスを訪問してイベントや数週間にわたるインターンシップに参加するケースがあります。

明治薬科大学

- ・期間：2024年6月および2025年6月
- ・対象：全学科4年生 約360名（2024年）、
全学科4年生+生命創薬科学科 3年生 約400名（2025年）
- ・内容：必修科目「医薬品開発」の1コマ「臨床試験の国際化」の授業



授業の様子

他社との共催事例

本企画の詳細はこちら→



第25回日本再生医療学会総会 企業展示会場での特別企画 「市民の医療リテラシー向上の取り組み～再生医療の社会普及のために～」(2026年3月)

株式会社VC Cell Therapyとの共催、さらに一般社団法人日本再生医療学会および一般社団法人再生医療イノベーションフォーラムの後援のもと、学会会場でイベントを実施しました。本企画は、多様なステークホルダー（患者支援団体、アカデミア、シンクタンク、大学生、製薬企業）が登壇し、講演およびパネルディスカッションの構成で、各々の立場ならではの活動や取り組みを紹介するとともに意見交換も実施しました。



講演



パネルディスカッション

マルチステークホルダーによる情報発信 - Innovation for NEW HOPEプロジェクト

本プロジェクトの
ポータルサイトは
こちら→



患者団体、医療従事者などの医療関係専門家が発起人となり、
「日本で最先端の治療法が1日も早く、継続して届く社会」
の実現を目指し、2023年8月に発足したプロジェクトです。アステラスが運営事務局を務めています。

学生との協働、公開シンポジウムの開催、学会や市民イベントでの発信機会などの活動報告を含む様々な情報を、プロジェクト専用のポータルサイトおよびSNSで随時発信しています。

Innovation for NEW HOPE 委員

大黒 宏司
一般社団法人
日本難病・疾病団体
協議会 (JPA)
代表理事



小坂 仁
自治医科大学
小児科学教授
自治医大
とちぎ子ども
医療センターセンター長



桜井 なおみ
一般社団法人
CSRプロジェクト
代表理事



武藤 香織
東京大学
医科学研究所
公共政策研究分野
教授



森尾 友宏
東京科学大学
理事/副学長・
特命教授



八代 嘉美
藤田医科大学
橋渡し研究支援
人材統合教育・
育成センター
教授



難病シンポジウム

「難病」にフォーカスした公開シンポジウムを、2024年および2025年と2年連続で開催しました。いずれも、臨床医・患者団体代表・医療政策シンクタンク代表の講演およびパネルディスカッションを実施し、企画運営で他の企業や団体とも協働しました。



最先端の治療法の 多様な価値の定量化・定量化

薬剤経済学専門家と共創し、患者さんと家族、健康な人が考える最先端の治療法の多様な価値を伝える活動を推進しています。制作した資料を、大学での講義や市民イベントにも活用しています。

最先端の治療法もたらす可能性のある価値			
QoLの向上! 生涯にわたってQoL (Quality of Life) 豊かになるが良好な健康状態が長く続く。	家族の負担軽減! 家族も身体的、精神的負担が少なくなる(QoLが高くなる、介護の負担が軽減される、等)	成長・発達! 治療により、他の人と同じように学校や社会に参加しながら成長できる	完治の希望! わずかな人数としても完全に治るなど、大きな効果を期待できる
費用の軽減! 通院や治療、介護に伴う費用が安くなる	労働生産性向上! これまで働けなかった人が働けたり、仕事のパフォーマンスが改善し、経済活動ができるようになる	保険の意義向上! 治療選択が増えて保険でカバーできる治療が増える、保険の意義や重要性が高まる	
不確実性の軽減! 事前の検査によって薬の効果や副作用の予測精度が上がれば、不確実性が軽減される	新たな選択肢の提供! 治療により余命が延びた際に、さらに良い治療法が開発される可能性がある	科学的波及効果! 革新的な治療が発見されれば将来のより効果の高い治療の発見・開発につながる	アンメットニーズの充足! 有効な治療がない疾患領域の治療を開発することはすでに治療法がある領域よりも重要である
病気の重症度の考慮! 重い病気や命に関わる病気の治療の優先順位をあげるべき	希少性の考慮! 患者数が少ない病気の人は、社会的に病気の人も、優先順位が高くなる	公平性の考慮! みんなに平等にアクセスするだけでなく、社会的に弱い立場の人は、治療の優先順位をあげるべき	

このらの価値については異なる治療法が提供しているものも含まれます

SPOR value flow[®] 小児患者に特化した価値観から医師の視点から評価する改善

1. Lathrop DL, Dyer JL, Gorman J, et al. (2021) SPOR Value Flow: A Framework for Measuring and Improving Patient-Centered Value. *Journal of Patient-Centered Health Research and Practice*.
2. Lathrop DL, Dyer JL, Gorman J, et al. (2021) SPOR Value Flow: A Framework for Measuring and Improving Patient-Centered Value. *Journal of Patient-Centered Health Research and Practice*.

学会でのブース出展

医療従事者、アカデミア、企業などが参加する医療系の学術集會にブース出展し、来場者に活動を紹介するとともに、来場者からの声も収集しています。



第24回日本再生医療学会総会@横浜 (2025年3月)



第7回AYAがんと医療と支援のあり方研究会学術集會@東京 (2025年5月)



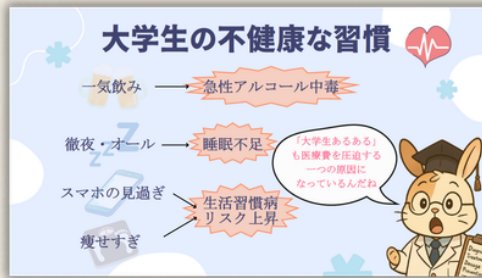
「学生が挑む！市民の疑問解決プロジェクト～最先端の治療法を届けるために～」

学生が体験プログラムを通じて日本の医療課題や最先端の治療法を学び、市民に伝える資料を制作し、それぞれの資料の対象に合わせた機会ですべて学生自らが情報発信しました（2025年3月～11月、7大学24名の学生が参加）。学生との協働は2024年度から開始したプログラムであり、3回目となる2026年度もアルムナイ（過去プログラム参加学生）と新規参加学生と共に、外部専門家のインプットやアドバイスを受けながら、さらに発展した内容で推進しています。

体験・学び

資料制作

情報発信



- ✓ 製薬会社の研究所見学
- ✓ 患者さん家族の講演
- ✓ 薬価制度・医療制度に関する講演
- ✓ グループディスカッション、他

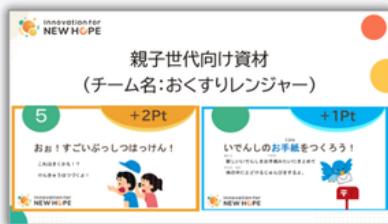
6チームに分かれ、それぞれが情報を伝えたい対象に合わせた資料を制作（各チームの資料は下記参照）

各資料の対象に合わせた機会ですべて学生自らが情報発信（上記は一部の事例）

学生が制作した資料

すぐらく
(対象：子供・親子)

薬ができるまでの過程やそこで直面する課題を伝える



すぐらく・講義資料
(対象：大学生)

患者さんの立場から直面する医療課題を知り課題解決に必要なステップを考えてもらう



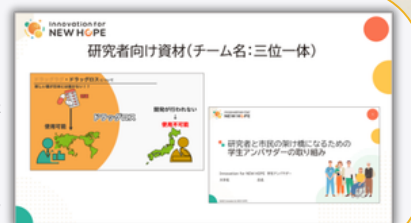
講義資料
(対象：高校生)

革新的な治療法やドラッグラグ・ドラッグロスについて紹介する



動画・学会発表資料
(対象：研究者)

より自分事として医療課題への意識を高めてもらい、「自分に何かできることはないか」を一緒に考えてもらう



動画・クイズ・資料
(対象：大学生)

医療課題を自分事として捉え、生活習慣の改善や一次予防に取り組むきっかけを促す



ポケットティッシュデザイン・ポスター
(対象：シニア世代)

日本の医療が抱える課題を、少しでも身近に、自分事として感じてもらう



政産官学（有識者）による研究会

本研究会の
ホームページは
こちら→



政産官学の有識者が一同に集まり、再生医療のあるべき姿の実現に向け、現状の課題や対策について議論する「再生医療で描く日本の未来研究会」（主催：事業構想大学院大学）を開催しています。アステラスは本研究会に協力しています。

研究会では再生医療の研究・開発から製造、臨床評価、医療保険財政や国民の理解など幅広いテーマが議論されています。研究会には有識者のみならず関連省庁や企業などの関係者も多く集まり、様々な連携が生まれる機会となっております。研究会でまとめられた提言は関連省庁に手交され、再生医療学会総会でもその内容が発信されています。

研究会メンバー（2026年5月時点）



■ 座長
田中 里沙 事業構想大学院大学 学長

■ 委員
古川 俊治 参議院議員
翁 百合 日本総合研究所 シニアフェロー
後藤 励 慶應義塾大学 教授
岡野 栄之 国際幹細胞学会 理事長
志鷹 義嗣 RealizeEdge Partners 代表取締役社長
西田 幸二 日本再生医療学会 理事長
畠 賢一郎 再生医療イノベーションフォーラム 代表理事会長

■ スーパーバイザー
国光 あやの 衆議院議員
丸川 珠代 衆議院議員
佐藤 陽治 国立医薬品食品衛生研究所 副所長
中村 雅也 慶應義塾大学 教授

■ オブザーバー
内閣府 文部科学省 厚生労働省 経済産業省
医薬品医療機器相談機構
日本医療研究開発機構
国立医薬品食品衛生研究所
理化学研究所

対外発信（フォーラム／シンポジウム／提言書手交）



2023年度フォーラム（武見厚労大臣へ提言書手交）



日本再生医療学会共催シンポジウム開催（左2024年度、右2025年度）



<2025年度 提言書手交>



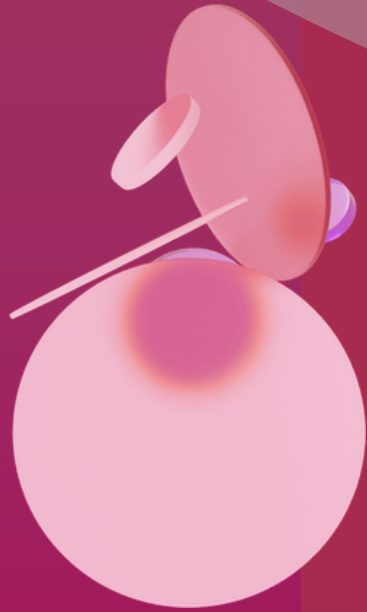
松本 洋平 文部科学大臣



仁木 博文 厚生労働副大臣



井上 博雄 経済産業省 商務・サービス審議官



患者さんや将来必要とする人々が、最先端の
治療法に持続的にアクセスできる社会を創る
ために、わたしたちは、革新的な新薬の価値
を、市民を含む多様なステークホルダーに理
解、共感、応援いただくためのアドボカシー
活動に取り組んでいます

アステラス製薬株式会社 アドボカシー部
〒103-8411 東京都中央区日本橋本町2-5-1
E-mail: newhope-sm@astellas.com



こちら↑から
E-mailアドレスに
アクセスできます



2026年5月作成